

県政報告

広島県議会6月定例会は6月16日から6月27日までの12日間の日程で開催され、平成29年度の補正予算、関連する条例などが審議されました。

■平成29年度補正予算（6月補正）

補正予算額539百万円

平成28年度当初予算編成後の状況変化等を踏まえ、必要性が認められる事業に適切に対応することを基本として、「ひろしま未来チャレンジビジョン（平成22年10月策定）」の推進に時機を逃さず対応することとしています。

（1）新たな経済成長 390百万円

①イノベーション・エコシステムの共通基盤の強化（20百万円）

○イノベーション人材の育成・確保強化

- ・企業の新たな分野への展開や地域産業の活性化等を図るため、民間人材紹介会社との連携を強化し、高度な技術・技能や経営感覚を持ったプロフェッショナル人材の更なる確保を行う取り組みを実施

②世界と直結するビジネス支援（370百万円）

○新規国際定期路線誘致事業

- ・平成29年10月から開設予定のシンガポール路線の定着を図るため、立ち上がり支援として運航経費等の一部を助成支援

○広島空港拠点性強化事業

- ・広島空港の拠点性強化を図るため、運用時間の1時間延長に向け、空港周辺地域の環境整備及び県営駐車場の有人管理時間の延長を実施

（2）人づくり 26百万円

①少子化対策（26百万円）

○保育士キャリアアップ研修事業

- ・保育士の専門性向上及びキャリアに応じた処遇改善を行うため、職務内容に応じたキャリアアップ研修を実施

（3）安心な暮らしづくり ▲52百万円

①信頼される医療・介護提供体制の構築（172百万円）

○病床機能分化・連携促進基盤整備事業

- ・医療・介護サービスの提供体制を充実させるため、広島県地域医療構想を踏まえ、医療機関が行う病床機能の転換にかかる施設・設備整備を支援
支援

②がん対策日本一に向けた取り組みの強化 (▲224百万円)

○広島がん高精度放射線治療センターの運営体制の効率化

- ・広島がん高精度放射線治療センターの運営コストの縮減等を図るため、指定管理委託について利用料金制へ移行

{	指定管理者に対する円滑な移行のための運転資金貸付	150百万円
	移行に伴う指定管理委託料の減額	▲374百万円

(4) 豊かな地域づくり

175百万円

①中山間地域の地域力強化 (38百万円)

○「ひろしま さとやま未来博 2017」の推進

- ・中山間地域の活性化を図るため、「廃校リノベーション」において、改修費用の一部を調達するために実施したクラウドファンディングにより集まった寄附金を廃校改修費に充当

②文化・芸術を楽しむ機会の創出に向けた取り組みの推進 (137百万円)

○県立歴史博物館の展示機能の強化

- ・県立歴史博物館の展示機能の強化を図るため、国指定重要文化財等の常設展示に必要な展示室の一部改修を実施

■条例

- 広島県個人情報保護条例の一部を改正する条例 等 (7件)

■人事案件

- 広島県公安委員会委員の任命の同意について 等 (2件)

■議案

- 179条専決処分報告 等 (2件)

■180条専決処分報告

- 訴えの提起について 等 (4件)

■報告事項

- 県が資本金の四分の一以上を出資等している法人の経営状況説明書 等 (5件)

■意見書

- 森林の整備・保全のための財源確保を求める意見書

「管茶山」資料の常設展示
～県立歴史博物館を改修～

- 平成29年度6月定例会において、県立歴史博物館に国重要文化財「管茶山関係資料（指定点数5,369点）」の常設展示室を設置するための補正予算が議決されました。



〔管茶山肖像画〕

- 児童・生徒を始めとした県民に対し、優れた文化に触れる環境の充実を図ることができます。

また、国重要文化財「広島県草戸千軒町遺跡出土品」と併せ、貴重なコレクションを展示することや、神辺町にある「管茶山記念館」との連携によって、それぞれの来館者数の増加が期待されますし、郷土の誇れる偉人の知名度を高める契機にしたいと思っています。



〔廉塾並びに管茶山旧宅〕

メキシコオリンピックチームの
事前合宿の開催地を広島に決定
～基本協定の締結～

- 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けたメキシコオリンピックチームの広島県内での事前合宿について、基本協定を締結しました。
- 基本協定の締結により、メキシコオリンピックチームの事前合宿の開催地を広島県内に決定するとともに、協定締結以降、双方が協働して実現に向けて取り組むことを約束しました。

○協定締結日：平成29年5月25日

○協定の内容

本大会の合宿地	広島県内
対象競技	26競技
協定締結以降の取り組み	2020年東京大会の予選大会時の合宿、本大会の合宿の実施及び滞在中の交流事業について、相互に協力・協働して実施
広島県側の支援	練習関係施設の利用、広島滞在中の移動・宿泊等

- 福山市の受入意向の状況

福山市	競泳、ダイビング、フェンシング、バドミントン、ボート、スポーツライミング、トライアスロン、カヌー
-----	--



〔基本協定締結時〕



〔メキシコオリンピックチームの事前合宿協定締結記念式典（福山市関係）〕

神辺バイパス（一般国道313号）の整備促進 ～（仮称）神辺トンネル工事推進中～

- 神辺町下御領から岡山県境までの約3.8キロ区間を「神辺バイパス」として整備するこの事業は、平成8年の工事開始から着実に整備が進み、平成26年4月までに約2.1キロ区間が供用開始しており、残る未供用区間（約1.7キロ）について整備を行っているところです。
- 「神辺トンネル」については、平成27年12月に工事発注され、平成28年9月より掘削が進められていましたが、平成29年3月に貫通しました。
- 平成29年度のバイパス供用を目指し、今後はトンネル坑口工、トンネル設備工などが施工されるとともに、残る道路改良工事や舗装工事等を進める予定です。

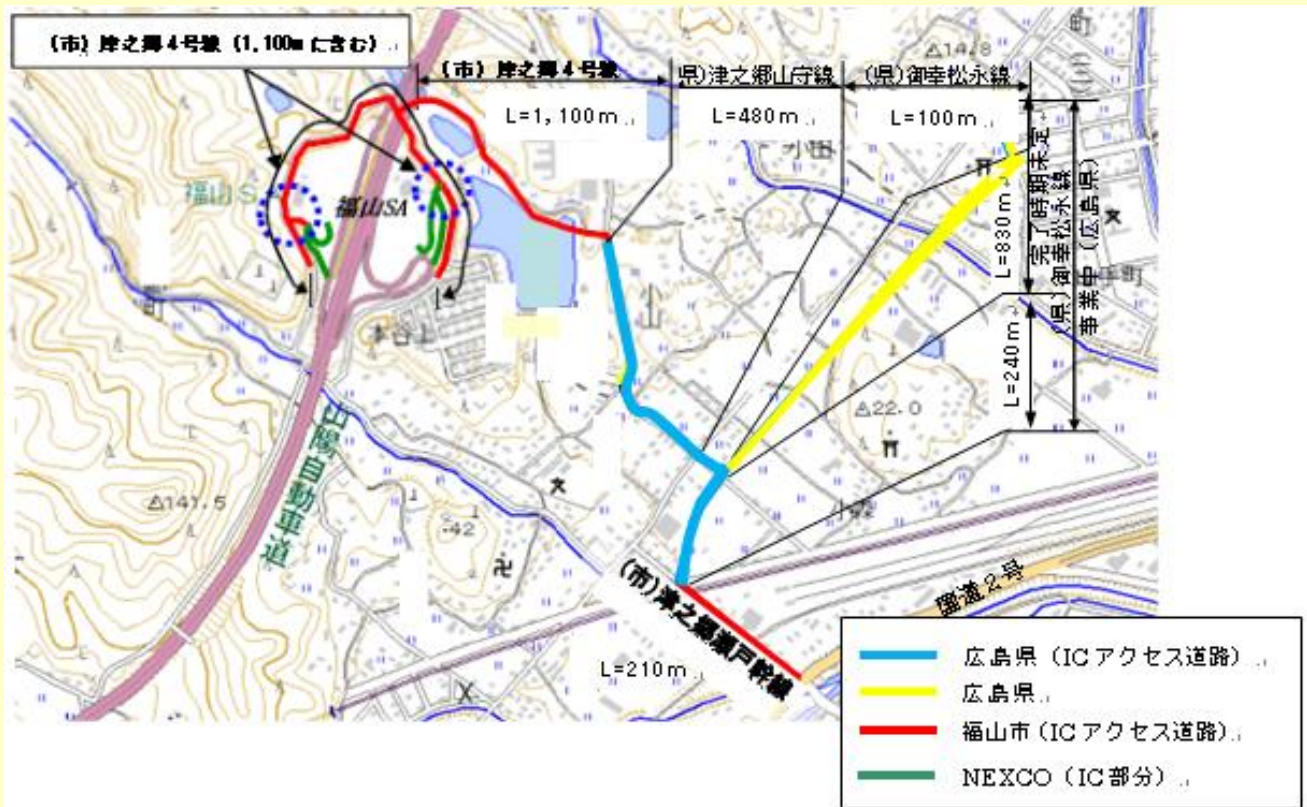
位置図

工事箇所



福山SAスマートIC ～アクセス道路の整備推進～

- 福山SAスマートICについては、福山市が国土交通省から平成25年6月にIC連結許可を受け、平成29年度中のスマートICの供用を目指し、現在関係機関が連携し、スマートICと国道2号までのアクセス道路について、整備を推進しています。



- 広島県では、津之郷山守線（480m）と御幸松永線（340m）について、スマートICとの同時期の供用を目指すとともに、スマートICの効果を更に高める御幸松永線（830m）についても都市計画道路山手赤坂線として街路事業により、早期完成を目指し整備を進めています。

林業における森林資源の循環サイクル

～（一般社団法人）広島県山行苗木残苗補償協会の取り組み～

- 広島県の森林面積は61万ヘクタール、県土の約7割を占め、そのうち人工林は20万ヘクタールあります。
- 林業における造林のサイクルは、苗木生産、植林、間伐、主伐、そしてまた、苗木を植林ということとなりますが、苗木の生産は、植林まで2～3回の植え替えなども必要で3年の歳月を要するため、主伐・再造林のスケジュールに合わせて、苗木生産を計画的に行っていく必要があります。
- このため事前に森林経営計画に基づき主伐・再造林が確実に実施し、苗木の生産計画を立て、本格的な主伐期に、再造林をしていく必要があります。
- 私は、一般社団法人 広島県山行苗木残苗補償協会の会長を務めさせて頂いており、当協会では、優良苗木の需給安定を図っていくことで、人工林におけるしっかりとした造林サイクルを確立し、県土の保全や水源涵養など、多面的な機能を持つ森林を維持に欠かせない取り組みに貢献していく所存であります。

